

島には希な巨人なり

平成 22 年 1 月 7 日
金沢大学附属図書館長
柴田正良

宗教家にして大旅行家、思想家にして大蒐集家の暁烏敏師が石川県石川郡北安田の真宗大谷派明達寺に生まれたのが明治 10 年、その大谷派の総本山、京都の東本願寺宗務総長に就任したのが 73 年後の昭和 26 年のことであった。青年期の師を既成の宗派に閉じこめておくのは土台無理である。師は、やがて清沢満之の宗門革新運動に参加し、当時宗門の禁書であった『歎異抄』を世に広めるなど、宗教の近代化に努めた。

金沢大学も戦後、師の蔵書 5 万冊余りを暁烏文庫として師から寄贈して頂いている。しかし 5 万冊というのは、個人の蔵書としては桁外れだ。常識を超えた量の蒐集物に耐えるには、蒐集家は強靱な精神を必要とする。師はまさに、島国には希な法外な精神力の持ち主であった。白山市提供の略年表には、「36 歳 この年思想崩壊し」とある。しかし自己解体の危機から、師はこの後、不死鳥のように蘇るのである。これもまた、まことに大陸的な思想のドラマと言えよう。